

第3学年 学年通信

2022年（令和4年）5月16日

Discovery 第8号

『ラフティングって』

ラフティングって何？

(5~8名程が定員)を使用し、川下りをするアウトドアレジャーです。ヘルメット、ライフジャケット、ドライスーツ、リバーシューズなどを着用し、ラフティング用のパドルを参加者一人ひとりが漕ぎながら行きます。ボートにはガイドが乗り合わせるため、ツアー参加者はガイドの指示を聞きながらパドルを動かし、激流ポイントや流れの緩やかなポイントを乗り越えていきます。一般的に、ラフティングは急流を下ってスリルを楽しむホワイトウォーターラフティングのことを指しますが、川の特徴により様々な遊び方があるのが特徴です。

※小学校1年生から可能な競技です。

※今回は長袖ウェットスーツの下に濡れてもよい服装か水着を着用します。

※眼鏡はメガネバンドを使用します。または、競泳用ゴーグルを使用します。

※コンタクトレンズはつけたままで大丈夫ですが、外れる可能性もあるのでIDAYのものや予備を用意しておきましょう。

※河原を歩くので、靴は必須です。かかとか固定できないビーチサンダルなどは不可です。

捨てる予定の靴があれば、それを使って現地で捨ててくるのが楽です。

新たに購入される場合はマリンシューズがおすすめです。



ラフティングの楽しみ方

急流コース

天然ジェットコースターのような激流を乗り越えていくのは、ラフティングの醍醐味。水しぶきを浴びながら迫り来るポイントを、参加者みんなで力を合わせて乗り越えましょう！

※危険がゼロではありませんが、富士川でラフティングが行われるようになって以来、救急車を呼ぶようなケガが発生したことはないとのこと。

ゆったりコース

ラフティングは常にパドルを漕ぎ続けるわけではなく、ゆったりとした川の流れのポイントでは、自然を眺めながら癒されるのも楽しい瞬間です。

川遊び

トロ場(流れの緩い場所)では、他のボートと水をかけあったり、岩場から飛び込んだり、ボートからおりて流れ下ったり(ライフジャケットを着ているので、自然に体が浮き上がります)色々な川遊びが楽しめます。

※今回の修学旅行では岩場から飛び込んだり、ボートから落とし合いをしたりは行いません。

※ボートから降りて水に入ることができますが、水に入らずボートの上で過ごすこともできます。

※水深は場所や天候によりますが、深いところで3~5mです。

※ライフジャケットを着用しているため、体重が150kgくらいでも浮きます。

今回、お世話になる団体

シャイニングフィールド

HP・・・<https://www.sh-field.com/>

ブログ・・・<https://ameblo.jp/shiningfield/imagelist-202105.html>

参考

<https://sotoasobi.net/activity/rafting/beginner>

